

夏ねぎの地域に合った優良品種の選定

要約

11月末に定植し、トンネル被覆を利用せず6月末～7月上旬に収穫する作型において、「羽生一本太」、「陽春の宴」は抽台の発生もなく、一本重や品質も良好であった。「初夏一文字」はわずかに抽台が見られ、一本重も他の品種に比べ軽かった。トンネルを使用しない作型で夏期に安定的に出荷するためには、抽台しにくい品種を選定する必要がある。

○ 展示のねらい

夏期収穫のねぎ作型は、抽台の発生が起りやすいため栽培が難しく、この時期に作付けできる品種が少ない。そこで品種比較栽培を行うことで、地域に合った夏ねぎの品種を選定し、作期の拡大を図る。

○ 主な成果

表 収穫時期の品質調査

	草丈(茎盤部～葉先) (cm)	葉数(5cm以上の生葉) (mm)	葉鞘径(茎盤部上10cm) (mm)	葉鞘径(調整後※) (mm)	一本重(調整後※) (g/本)
羽生一本太	94	6.5	21.0	19.6	155
陽春の宴	96	6.5	21.6	19.2	159
初夏一文字	92	6.3	20.9	18.4	152
夏扇パワー	97	6.2	21.4	20.1	175

※ 各試験区10本測定した平均値、収穫・調査はすべての品種で6月26日に実施

※ 調整は、葉4枚が残るまで剥き、茎盤部から長さ58cmで葉をカットした

抽台の発生は5月頃から見られ、6月7日の調査時で羽生一本太と陽春の宴では発生が見られなかったが、初夏一文字で1%、夏扇パワーで13%の株が抽台していた。

収穫時期の品質調査では、草丈は夏扇パワーが最も大きく、調整後の葉鞘径および一本重についても最大となり、初夏一文字が最小となった(表)。

出荷物の等級別比率調査では、一本重が大きいL・2Lの割合は、羽生一本太>夏扇パワー>陽春の宴>初夏一文字の順に多くなり、曲がりや抽台によるB品の割合は、夏扇パワー>初夏一文字>陽春の宴>羽生一本太の順に多くなった。

○ 今後の方向性

比較的高単価が見込まれる時期(6～7月)の出荷を目指し、また省力的にトンネル等を使用しない作型において実施しており、抽台のリスクが少ない品種を選定することが重要である。また近年、温暖化の影響もあり、年によっては作が進み収穫が前倒しになる場合もみられており、安定的に出荷するためには、複数の品種やトンネル利用の作型を組み合わせるリスク分散を図っていく必要がある。

今作では春先に雨が多く、べと病の発生が多く見られたため、適期防除と併せ、ほ場の排水性を改善し、過湿とならないようにすることも必要と考えられる。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：下野市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315